

世界のすべて

「真実はひとつ!？」

目の見えない 按摩さんの話

江戸時代、目の不自由な人が就く仕事は限られていました。その内のひとつが按摩です。今風に言うとマッサージ師か整体師といった感じです。その按摩さんらが5人。街に珍しい生きものが来た、と聞いて見に行きました。

目の見えない 按摩さんの話

といっても、目が不自由なため「見る」ことは出来ません。
5人はその生きものを「触る」ことで理解しようとしてしまし
た。5人はそれぞれでんでんばらばらに、その生きもの
を触りました。

目の見えない 按摩さんの話

さて、帰ってきた5人は自分が「見た」生きものを他の4人に話します。

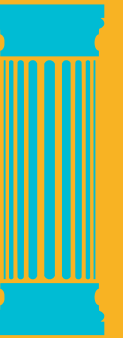
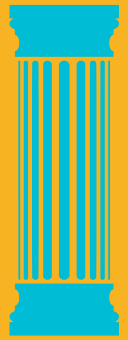
1人目の按摩は「わしが見た生きものは、まるで箒のようじゃった。先に毛のようなものが付いておってな、バサバサと動いておった。」と言いました。



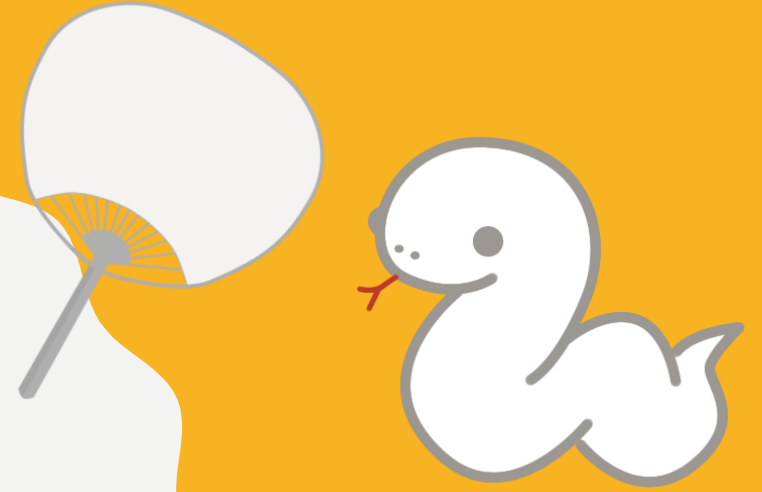
目の見えない 按摩さんの話

2人目の按摩は「いやいや、わしが見たのは、まるで柱のような生きものじゃった。大きな家の大黒柱くらいの太い太い柱のようじゃった。」と言いました。

3人目の按摩は「いやいや、2人とも全然違う。わしが見た生きものは、まるで壁のようじゃった。押しても引いてもデーンと動かない壁のようじゃった。」と言いました。



目の見えない 按摩さんの話



4人目の按摩は「何をみんなして訳のわかんことを。あの生きものは、まるで団扇のようじゃった。大きな薄っぺらい団扇がヒラヒラと動いておるようじゃった。」と言いました。

5人目の按摩は「みんな本当にあきれるわい。あれは、蛇とそっくりじゃった。ウネウネとまるで蛇のように動いておった。」と言いました。

目の見えない 按摩さんの話

5人とも同じ生きものを「触った」のにおのおのが全く別のたとえで意見を述べています。

さて、5人が出会った生きものとは何でしょうか？



目の見えない 按摩さんの話

正解は、

「象」です。



目の見えない 按摩さんの話

この話の中では誰も嘘を言っていません。でも、みんな違うことを言っています。真実はひとつですが、事実は5通りあった訳です。

目の見えない 按摩さんの話



同じことが世界の見方にも言えると思います。
ひとりの人間は世界の一部分しか見ていません。

でも、その一部分を「世界のすべて」のように主張します。

目の見えない 按摩さんの話

「友だちがすべて。」

「勉強がすべて。」

「お金がすべて。」

「恋人がすべて。」

「勝つことがすべて。」

目の見えない 按摩さんの話

「すべて」じゃないのにね。

「友だち」は象のしっぽ。

「勉強」は象のおなか。

「お金」は象の耳。

「恋人」は象の鼻。

「勝つこと」は象の足。



目の見えない 按摩さんの話

いろんなことは「すべて」ではありません。
でも、「すべて」を無くす出来事があります。

それは、「命を無くすこと」です。

これから、しっぽや鼻や耳、おなかや足を見るために。
世界の「すべて」を垣間見るために。

みなさんへのお願いです。

生きることが
つらいとか 苦しいだとか
言う前に

野に育つ花ならば
力の限り 生きてやれ

「大空と大地の中で」作詞・作曲：松山千春

とにかく生きる